

日本語教育実践研究 (7)

—漢字指導 C クラス—

鈴木 義昭

本稿は、日本語研究教育センター設置科目「漢字指導 C」(春学期 月曜 5 限)の授業と、そこで実施された大学院日本語教育研究科設置科目「漢字教育実践研究」(春学期 火曜 2 限)及び「教育実習」(月曜 5 限)受講生の教育実習後の報告である。

「漢字指導」(A・B・C の 3 クラス)は、2001 年 4 月より、漢字教育への要請が高まる中、「発音指導」・「文法指導」とともに開講された科目である。「漢字指導 C」クラスは、大学院日本語教育研究科設置科目「漢字教育実践研究」の教育実習実施クラスとなった。A～C の各クラスは、それぞれ初級・中級・上級に対応し、初級では 500 字、中級が 1000 字、上級が 1000 字(中級と重複あり)程度の常用漢字習得を目標とした。初級・中級には、所謂「非漢字系学生」が多かったが、上級では、両方が混然と入り混じった構成となった。今期、「漢字指導 C」クラスは、韓国出身 10 名、中国(台湾も含む)出身 10 名、その他(タイ・ベトナム・ロシア・ドイツ・アメリカ等)出身 11 名という構成になった。

対して、「漢字教育実践研究」を受講した大学院生は、日本人 1 名、中国人 4 名の計 5 名であった。今期は、全 14 週ということで、全員が二回の教壇実習(毎時 30 分)を行うことができた。月曜日の「漢字指導 C」授業時に実習を行い、火曜日の「漢字教育実践研究」授業時に、実習の反省、毎週実施するクイズの採点、来週の授業の教案の検討等を行った。以下に、それぞれが行った教育実習の題目を掲げておく。

4 月 1 9 日	児玉 美友紀	促音化する漢字の読み方
4 月 2 6 日	彭 佳	漢字の音と訓
5 月 7 日	曾 宏	連濁化する漢字の読み方
5 月 1 0 日	邵 雪飛	類義語と反義語
5 月 2 4 日	張 全林	同音異義語
6 月 7 日	児玉 美友紀	形声文字の原則
6 月 1 4 日	彭 佳	送り仮名のつけ方
6 月 2 1 日	邵 雪飛	辞書の引き方
6 月 2 8 日	曾 宏	日本語の接辞について
7 月 5 日	張 全林	当て字

日本語教育機関で、単独で「漢字指導」、「発音指導」を設置している箇所は多くないであろう。そうした意味で、学生たちが行った、本報告は意義あるものであると確信する。大方のご批正が戴ければ幸いである。

(スズキ ヨシアキ・日本語教育研究科教授)